



医療法人近森会

発行 ● 2006年12月25日

www.chikamori.com  
www.近森病院.com

〒780-8522 高知市大川筋一丁目1-16 tel.088-822-5231 fax.088-872-3059 発行者 ● 近森正幸 / 事務局 ● 川添昇

# びるっば

# 1

## Vol.246

### 年頭所感

## 地域に必要とされる病院として

医療法人近森会理事長 近森正幸



### 出来高払いから包括払いへ

今年、近森会に最も影響があった出来事は二つあります。その第一は昨年4月の診療報酬の改定で、この月から近森病院はDPC算定病院となりました。従来近森会の半数以上は出来高払いで、包括払いは回復期リハのリハ病院と精神科の急性期治療病棟のみでした。近森病院のDPC算定により、出来高算定は精神科の一般病棟のみとなり、近森会のほとんどが包括払いとなりました。

これまでの出来高払いでは、利益は薬価差や人件費差益であり、チーム医療でいい医療を提供すればするほど、薬や診療材料は使われなくなり売り上げが下がることとなります。スタッフが増えれば、売り上げに対する人件費率も増加します。近年の医療費の削減にともない差益も減少を続けており、たいへん厳しい経営状態となっておりました。

### DPCの三つのメリット

昨年4月から、近森病院の急性期医療もDPCによる一日包括払いが始まり、コストの積み上げではなく、たとえば一般商品と同様に、一日幾らと値段が設定されるようになりました。このように包括払いになったことで三つのメリットが出てきます。

一つ目は、いい医療をするほどモノのコストが削減され利益が増えます。二つ目に、多職種のスタッフが専門性を高め、チーム医療をすればするほど合併症が予防され、在院日数の短縮、医療の質の向上が図られます。そのことで患者数も増加し、スタッフ一人ひとりの労働生産性が高まり、相対的に患者一人当たりの人件費率も下がってきます。三つ目は、DPCのなかでも、手術やリハビリテーションは出来高払いであり、医療機能を絞込み医療機能を特化することにより、出来高部分も増加し、売り上げ増に貢献します。これらの地道な努力が、DPC導入により爆発的な効果を上げたといえます。

### 包括払いのもとで

今回の診療報酬の改定では、1日にリハビリテーションを行なえる時間が増加し、短期間に充分なりハビリテーションを提供することが可能になってまいりました。

新しく7月1日より院長になられた今井先生の若いエ

ネルギーで、近森リハビリテーション病院では、在院日数が短縮し、一入院当たりの医療費は低下しました。また病院にとっても1日当たりの入院単価が増え、患者増により稼働率も増加してまいりました。

こうして、質の高い医療を提供して、患者さんに早く自宅に帰っていただき、しかも医療費は全体として減少するという、「患者さん」「国・保険者」「病院」三者がハッピーな体制をとることが可能となりました。このことは近森病院でも第二分院でも同様の結果が出ております。

第二分院でも在院日数の短縮とともに、稼働率が向上しパティオの患者さんも増えてきました。近森病院でも7:1看護の取得により、3階東病棟にステップダウン病棟を開設、HCUの対象患者の増加、ICU・CCUの受け入れ体制の向上に貢献しております。

これにより、救急をお断りすることなく受け入れることが可能となり、DPCによる在院日数の短縮や稼働率の低下に対応することができるようになってきました。

### 電子カルテの導入

近森会にとって特筆すべき第二の出来事は、10月1日の電子カルテの導入で、生理検査システムや動画システムが順次スタートしています。電子カルテは新しい医療システムの構築であり、診療情報の共有により、チーム医療の推進と医療の質の向上が図られます。

これまでの紙カルテは医療情報が十分利用されず、埋もれてしまいがちですが、これからは電子情報として十二分に利用でき、これからの近森会の医療の質の向上に、大きく貢献してくれるものと期待しています。

この数カ月、事前会議、電子カルテワーキングを通じて、紙カルテに比べ電子カルテが劣るレスポンスタイムの向上や通覧性の向上に向け、多くのスタッフが多大な時間を割いて努力してくれておりますが、いまだ外来などの待ち時間の短縮には至っておりません。

これからも近森会がさらにいい医療を提供し、地域にとって、なくてはならない病院としてあり続けたいと願っています。また近森会のみんなが、よく働き、よく遊び、人生を楽しく豊かに過ごしていただきたいと願っております。

## 平成 18 年度、院内看護研究発表会 (2006.11.26) のご報告



教育・業務担当師長  
川村 久美子

## テーマは臨床現場からの発信

—質の高い看護実践を目指して—

今年は看護研究の内容充実のため、隔年ごとに発表するシステムにして2年目となり、その結果、質的研究と量的研究が主流となり看護研究のレベルアップに繋がったと思われます。

研究グループメンバーたちは、2006年10月からの電子カルテの導入などの多忙な業務の中、日々の看護における疑問を明らかにするため、院外講師や看護研究エキスパートナースの助言を受けながら発表日までメンバー一丸となり、看護研究に熱心に取り組みました。発表演題は9題で、次々ページの3つのテーマについて考え、その成果を発表されました。

当日は院内外より約100名の参加があり、熱心な質問や梶原看護部長からの総評が加わり活気あふれる発表会となりました。座長(布

美奈子主任・小松祥子主任・萩原博主任)は参加者との間で十分に意見交換が行われるよう配慮し、決められた時間内で運営され盛会裡に終了出来ました。

また日曜日にもかかわらず院外より参加し、発表会を盛り上げてくださった皆様方、そして、ご苦勞をおかけした院内の皆さんにもこの誌面をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。お疲れさまでした。

今回の看護研究によって得られた知識を看護実践に活かし、看護の質を高められるように努めていきたいと思っています。今後も日々自分たちの行っていることについて疑問を持ち続けながら、看護研究が患者さんやご家族の満足のために、そして地域社会に貢献していきたいと思っています。



院内看護研究発表者の皆さん



院内看護研究発表会のようす

## 発表論文のタイトルと発表者

## 第1群 患者や家族が、より多くの満足を得るための研究

- 回復期リハビリテーション病棟における患者満足度向上に向けて～入院生活での時間使用の現状と把握～  
発表者：近森リハビリテーション病院4階東病棟 西森絵梨
- 入院期間の短縮化による高齢者患者・家族の退院時の不安～インタビュー調査によるその実態とケアの必要性～  
発表者：近森病院新館5階東病棟 橋本 美緒
- 糖尿病外来透析患者の足病変への認識が欠如している理由調査  
発表者：近森透析室 楠 享子

## 第2群 看護実践能力を適切に捉え、向上を目指すための研究

- 回復期病棟における患者に抱く陰性感情へのコーピング～陰性感情を抱く患者と向き合おうとする看護者の心理～  
発表者：近森第二病院3階病棟 岡 ちひろ
- 2年目看護師の知識・技術の習得状況に関する研究  
発表者：近森病院HCU 幾田 安奈
- 当院ERにおける看護実践項目の抽出～当院ER勤務の看護師に必要な指導用指針の作成に向けて～  
発表者：近森病院外来 山本 靖代

## 第3群 現状の実態を知り、新たに取り組んでいくための研究

- 病衣における“身だしなみ”に対する病棟スタッフの意識調査  
発表者：近森病院6階西病棟 平田 絢子
- 当病棟における清潔に対する現状と認識調査～手指衛生を通じて～  
発表者：近森病院4階西病棟 森岡 路子
- 二交替勤務導入における看護師の生活習慣実態調査～三交替と二交替を比較して～  
発表者：近森病院3階東病棟 吉岡 三貴

## 第295回 高知例会

## これからの福祉と医療を

1982年5月20日の第1回例会開催以来295回目の今回、全国各地からようこそ高知県へ

医療法人近森会 管理部長

川添 昇



「福祉と医療を実践する会」は25年の歴史を持ち、主に医療機関の勉強会組織として地道に活動している。近森会も入会して20年となり、高知例会はちょうど10年前に行なって今回で2回目となる。

全国から40名余りの医療福祉関係の方々と、当院からは理事長とスタッフが参画して、近森リハビリテーション病院会議室をメイン会場として3日間にわたって開催された。

テーマは「ぶれない経営の10年」ということであったが、講演やシンポジウムのいずれも、今後の厳しい医療情勢について語られ、ディスカッションされた。

こうしたことを通じて近森会の今後の課題は、この10年間実践してきた「良質な医療をできるだけ早く安く提供する」ことを、これからもずっと行なっていくことであろう。優勝劣敗ではなく、世の趨勢を見わたして適応した適者生存といえる。

世の動きに柔軟に対応できる多数精鋭の組織こそが、生き残っていくことが出来る要だと思われる。





# 「セカンド オピニオン外来」 スタート

## 【1】セカンドオピニオン外来とは？

直訳すると「第二の意見」、つまり患者さんが現在受診している医療機関の主治医の診断や説明、治療方針について、「他の医療機関の医師に客観的な意見を聴く」というもの。

## 【2】具体的には例えば、

①手術が必要といわれたが、手術以外に他の治療法はないのか別の先生に聞いて

みたい。

②〇〇の病気の可能性が高いといわれたが、ホントにそうか別の先生に聞いてみたい。

③現在の治療法で大丈夫なのか、不安を抱えている。

④他にも治療法があるか知りたい。

【3】近森病院ハートセンターでは入江博之・心臓血管外科部長と、

川井和哉・循環器科部長の担当で、この「セカンドオピニオン外来」がスタートすることになりました。

【4】詳しくは近森会のホームページで。

近森会のホームページは  
<http://www.chikamori.com>  
または [www.近森病院.com](http://www.近森病院.com)

## お知らせ

# 実践する会

▼「療養病床の行方」と題して活発な討議

## 第37回 近森病院地域医療講演会

日時：平成19年2月9日(金) 18:30~

会場：高知パレスホテル

演題「心臓外科における  
総合的低侵襲化について」

講師 榊原記念病院 副院長  
心臓血管外科部長 高橋幸宏先生

## 第18回 日本老年医学会四国地方会

日時：平成19年2月17日(土)

会場：高知市文化プラザ

かるぽーと小ホール

※会長を近森病院循環器内科の  
深谷眞彦部長が務めます。

仲野氏

吉本氏

手島氏

島森氏

◀「今後の病院の変化…高知から見てくること」と題して近森理事長が講演。「もっともっと変わるぞ病院」をテーマに岡田所長が講演。その後に対談も

▼「看護の源流」と題し、近森会の看護部長、各師長が現状を報告

青木

梶原

川村

西岡

北岡

## 第295回

これからの福祉と医療を実践する会  
高知例会の日程

### ●2006年11月23日

オリエンテーション

「近森会のあゆみ……」

この10年ぶれない病院経営

医療法人近森会管理部長 川添昇

近森会施設見学

### ●2006年11月24日

「シンポジウム 療養病床の行方」

いずみの病院事務局長 吉本正秀氏

共立病院事務長 手島厚氏

青磁野リハビリテーション病院

管理部長 島森万二氏

座長

TMC事業本部推進室長 仲野豊氏

「今後の病院の変化

……高知から見てくること」

医療法人近森会理事長 近森正幸

「もっともっと変わるぞ病院」

社会医療研究所所長 岡田玲一郎氏

### ●2006年11月25日

シンポジウム「日本の看護と介護」Ver12

看護の源流

「近森会看護の構造」

医療法人近森会看護部長 梶原和歌

「実践教育」

教育・業務担当看護師長 川村久美子

「安全アクション」

医療安全担当看護師長 青木千利

「精神科のリハビリより」

デイケア看護師長 西岡由江

「在宅支援より」

いごっばち看護師長 北岡一恵

全プログラム総合司会

近森リハビリテーション病院

事務長 森山博行

# 科長に昇格しました。

## 乞 熱烈 応援

### 「患者さんから学ぶという原点」

脳神経外科科長 大谷 敏幸

脳神経外科科長を拝命いたしました。私が近森病院に赴任したのが平成 15 年 6 月ですから、早いもので 3 年 6 カ月が経ちました。四国は初めてでしたので当初はかなり不安でしたが、高知の大らかな風土にも影響され笑顔で何とかここまでやってこれました。たいへん働きやすい環境で仕事をさせていただいており、お世話になっている高橋部長をはじめ諸先生方、外来や病棟、手術室のスタッフの皆さん、病院を支えている多くの方々に感謝しております。これからも患者さんから学ぶという原点を忘れずに、多くの方々に元気を提供できるよう心新たに頑張っていきたいと思っております。これからもよろしくお願いいたします。

### 「地域や病院に貢献できる道」

脳神経外科科長 林 悟

最近では小児科、産婦人科を希望する研修医の先生が減少していることをよく耳にしますが、脳外科も全国的に希望者が少なく、高知県内の脳外科医の数もここ数年減っているようです。脳卒中や頭部外傷が治療できなければ救急病院としての対応は難しく、今後ますます近森病院の役割は大きくなることが予想されます。

そのような状況のなか、このたび脳外科科長に任命していただき、大きな責任を感じております。年齢的には中堅になりましたが自分ひとりでは微力であるのは当然で、今後も高橋部長、大谷先生はじめ様々な職種の方々とチームワーク良く、日々の診療を丁寧に続けることが一番と思います。その上で、脳外科医としての実力を伸ばすことが、地域や病院に貢献できるのではないかと考えます。今後ともよろしくお願いいたします。



## ディズニー「夢の国」へ

### 職員旅行

2006

Vol.3



## 祈りは人生そのもの、聖なる国トルコへ



▲オスマン・トルコ歴代の多くの皇帝の居城、トプカプ宮殿の第二庭園で

▲いつもに増して主役は子どもたち! 何とも羨ましいような happy 五人兄弟姉妹

▶大きな地球儀を眺めながら、共に未来の地球のことを考えよう、明日を担う子どもたち!



◀ボスポラス海峡を望むドルマバフチェ宮殿の正面にはこんな衛兵が! オスマン帝国末期の皇帝の居城として使われた。共和制宣言をしたケマル・アタチュルク大統領は1938年11月10日、執務中にこの地で亡くなり、いまでも宮殿内には彼の死亡時刻に因み、9時5分で止められている時計がある

## 沖縄県南西部、八重山群島の主島・石垣島へ



▲アジアとヨーロッパを結ぶボスポラス海峡から各街区にあるモスク(イスラム教の礼拝所)を望む。イスラムの休日の金曜、正午には国民の99%とされる信者はモスクで集団礼拝を行なう



▲由布(ゆふ)島と西表島の浅瀬を結ぶ水牛車の迫力!



▲天然記念物ヤエヤマヤシ前で



## 医療安全シリーズ①

医療安全担当看護師長 青木 千利

## 思い込み



ひろっぱの紙面にシリーズで枠を戴いたので、体験記（研修珍道中）からスタートしようと思う。

先日鵜飼漁で有名な岐阜県にお邪魔した。昼時に美濃太田駅に着き、我々はチラシに載っていた“幸ちゃん”のトンカツ定食を目指して歩き始めた。

“サッチャン”の看板が目止まり喜んだが、あれ？カタカナ？喫茶店だった。やがて“幸ちゃん”が見つかり、6名がテーブルを囲み待っている間に、このお店の名前は、「さっちゃん？ ゆきちゃん？ みゆきちゃん？ ひよっとして、こうちゃん？」。女性5人の中に1人含

まれている殿方もいっしょになって、1100円の食事代の100円分をご馳走しあいましょうと話は即決。「あの～、お店のおなまえは？」すかさず、「ハイ ありがとうございます。こうちゃんです」。指差し呼称項目「名前、読み方 確認 ヨシ！」

さっちゃんと思いでいた4人から、200円分のトンカツをご馳走になったのは、私とTさんでした。この「幸ちゃん」が珍道中の始まりになるとは、まだ誰も予想していなかった。後々続く珍事は次回に。もちろん人権に差しさわりのない範囲で。

## ● 1月の歳時記 ●

## 正月早々縁起の良い

## 千両と万両

万両

文 高知市障害者  
相談支援センターちかもり  
医療ソーシャルワーカー

林 恵

片岡 裕美

画 秘書 武政 沙織

千両：お正月の飾り物に縁起物として使われます。似た木に万両、百両、十両があります。名前の違いは、千両は葉の上の方に実をつけるので、鳥に食べられやすく、万両は葉の下に実をつけるので食べられにくく、その分実がしっかり残るから…または、万両は垂れ下がり、千両は上向きにつくので、万両の方が重く、千両は軽いなど



千両

…百両や十両はそれらに比べ背が低く、実の数も少ないことから…など諸説あるようです。花言葉は「富・財産」納得ですね。

## 図書室便り

(管理棟図書室 11月受入分)

- ・前十字靱帯 (ACL) 損傷診療ガイドライン / 日本整形外科学会診療ガイドライン委員会 (他編集)
- ・最新・悪性リンパ腫アトラス / 菊池昌弘 (他編集)
- ・内服薬 経管投与ハンドブッカー 簡易懸濁法可能薬品一覧 - 第2版 / 藤島一郎 (監修)
- ・別冊・増刊号
- ・別冊 医学のあゆみ メタボリック
- ・シンドローム REVIST / 戸辺一之 (編集)
- ・臨床スポーツ医学 vol.23 臨時増刊号 2006 スポーツ損傷に対する関節鏡手術実践ガイド / 臨床スポーツ医学編集委員会 (編集)
- ・《ビデオ・DVD》
- ・Dr 岩田の感染症アップグレード 第3巻 外来シリーズ / 岩田健太郎 (監修)

## 院外エッセイ

## イカと大根の煮いたが

谷 治 正子



高知県産業訓練協会専任講師 (接遇担当)  
全日本作法会  
ビジネスマナーインストラクター  
家督 (※先生の先生のこと)  
高新文化教室 現代マナー講師  
服部和子きもの学院 高知分校 分校長  
昭和8年、高知市生まれ。

「みんなでやるぞね。『早ね早おき朝ごはん』、これは高知県保幼小中高 PTA 連合体連絡協議会が作成し、配布しているポスターのメッセージです。やなせたかしさんのかわいらしいキャラクターが「朝ごはん」の大切さを訴えています。

こんなポスターが作られなければならないほど、幼児期から朝食をとらない子どもたちが増えています。かろうじて何か朝に食物をとってきたとしても、それがスナック菓子だったりしているのではないのでしょうか。子ども一人で菓子袋を抱えての朝食って、とても寂しい朝食風景ではありませんか。

コンビニで二人の中学生が夜の9時過ぎ頃、お弁当を買っていました。その一人が、「俺、おかあを作るイカと大根の煮いたががすごい好きや。けんど、おかあは忙しゅうてめったに作ってくれん」と、もう一人の中学生に話していました。すると、もう一人は「俺んところも。俺はカレーやちや」と応えていました。

あとの会話はよく聞こえませんでした。これは全く創作ではないホントの話なんです。家族の作る食事が子どもたちの「心の栄養」になっていることは、コンビニでのこんなちょっとした会話からも汲みとれます。「一期一会は食卓にあり。人生とは誰と食卓を共にするかということだ」とは詩人の長田弘の言葉です。

年末年始のこの時季、日頃はお仕事でお忙しい方にも、ご家族で過ごせる時間がきっとおありだと思います。ぜひ手作りの料理を一品でもお揃えになって、お子様と食卓を囲まれてはいかがでしょうか。食事は人の肉体を育み、そして食卓を囲んで話す様々な事柄は人の心を育んでいくものと思います。

新しい年には「早ね早おき朝ごはん」のポスターなど要らぬ、子どもたちが明るく伸びやかに育っていくことを心より願います。

# 電子カルテ時代のクリニカルパス

2006年11月17・18日の両日、済生会熊本病院・副院長、副島秀久学会長のもと、第7回日本クリニカルパス学会が開かれた。

クリニカルパス担当看護師長

久保田 聡美

## クリニカルパスの大きな流れ

近森会からの演題は、パス展示を含め10演題と多数で、事前の準備も大変だったが、その分、得るものも大きい学会でした。

パス学会の方向性としても、メインテーマ「クリニカルパスのさらなる進化を目指して」が示す通り、パスの普及から、パスの進化、電子化という大きな流れを感じました。

## 効率化で生まれたゆとりを次へ繋げる

単にパスの数を増やし、使用率を上げるだけでなく、用語やアウトカ



▲「パスと記録」がテーマのシンポジウムでシンポジストを務める筆者

ムの標準化を目指し、効率化で生まれたゆとりを、次なる改善活動に向けてというTQMを目指そうとしている方向性を肌で感じることができました。

## 個人レベルから医療情報学会への連携

そして、そうした問題が個人や各病院レベルでの問題でおわらせず、学会としての問題意識をもち、今後は医療情報学会との連携も提案されていることに心強い思いを感じました。

## 記録をチームで共有するための標準化

また、シンポジストとして登壇させていただいた「パスと記録」がテーマのシンポジウムでは、記録は医師や看護師だけのものではなく、チームで情報共有するものであり、そのためのあるべき姿をいかに構築していくべきか、アウトカム用語の標準化をいかにすすめていくべきかという議論がなされま

した。

## パスの電子化の課題の明確化

議論に参加しながらも私自身近森病院が目指している方向性に間違いはないという自信をもつと同時に、次期導入を予定しているパスの電子化を進めるにあたっての具体的な課題が明確になったことも大きな収穫でした。

## 業務改善に繋げる支援ツール

現在、診療情報管理室の鍵本さんをパス委員会事務局の拠点として、パス改定の作業も高橋潔委員長（脳神経外科部長）と共に進めています。業務改善につながる支援ツールとしてのパスを目指していますので、ちょっと面倒でも皆さんご協力お願いします。

来年は札幌です。日頃の実践を活かした演題をもって皆で参加しましょう！



## 子どものような大人!?

医事課 尾原 亜紀

2006年迎えた成人式の日に、私の振袖姿を父が携帯電話で写している所を、姉が写したものです。私も父も気付いていないため、自然な感じが出ていてとても気に入っています。

社会人になったせいか、その日から今日までの約1年が、とてもあっという間に感じます。「こんな若い頃もあったんだなー」と思う日がずっと先であることを願っています。あと、昔思い描いていた二十歳とは程遠い…ということも実感しました。

10年後も20年後も、いつまでも自分らしくいたいです。



## 第69回 救急医療症例検討会

# 救急隊員と医師の事後検証

重症頭部外傷をテーマに、2006年11月7日、近森病院管理棟5階会議室で

脳神経外科 科長 大谷 敏幸

救急症例検討会で救急隊員が医師とともに救急搬送した症例について事後検証を行っています。今回は2例の重症頭部外傷が匿名で提示されました。

まず事故発生から病院搬入までを担当の救急隊員の方が経過を説明し、その後、搬入後の経過について主治医（脳外科大谷）が経過説明をしました。

1例目は転落事故による急性硬膜下血腫、多発顔面骨骨折の症例でしたが、夜間の見えにくい場所への転落で救助の際の照明での苦労話がありました。

治療に関しては開頭血腫除去術、および頭蓋内圧モニター下に行なった低体温療法が有用でした。

2例目は交通外傷による急性硬膜下血腫、脳挫傷、外傷性脳内出血の症例で、たまたま通りがかった救急隊員の方が救助活動を行なったことや、事故



時の警察の交通整理に関する話題が上りました。重症頭部外傷の治療に関しては頭蓋内圧亢進による二時的な脳損傷を防ぐことが最も重要です。

症例提示の後に脳神経外科の高橋部長より頭蓋内圧亢進の治療に関するレクチャーと質疑応答が行なわれ、内容の濃い有意義な検討会となりました。最後に高知赤十字病院の西山謹吾先生に救急医療全般に関するお話をいただきました。

救急医療の向上のため救急隊と我々医療関係者が協力し、お互いのレベルアップのため地道に努力していきたいと思えます。





## リレーエッセイ

## 絵本のある生活

医療福祉部リハ病院医療相談室  
矢野 美和



実家の母に聞くと保育園に行っていた頃から、絵本が大好きでいつも保育士さんの膝の上で絵本を読んでもらっていたようです。みなさんは子どもの頃お気に入りだった絵本ってありますか。私は「おやすみなさいフランス」や「どろんこハリー」などが好きでした。

大人になった今でも絵本は大好きで、独身の頃から本屋さんでも絵本コーナーでウロウロ物色。友達に子どもが生まれると、プレゼントという名目で絵本を選ぶことができ、わくわくしていました。本棚の前に立ち、パラパラとめくってはどれにしようかなーと選ぶのは楽しいもので、いつか自分の子どもに読み聞かせをするのがちょっとした夢でもありました。

今は、晴れて好きな絵本を買って読み聞かせができるようになりました。二歳になる息子も絵本が大好きで、朝起きたときから「これ読んでー」

と持ってき、夜寝る前はもちろん絵本タイムです。

小さな身体で大きな絵本を何冊も抱えてきてうれしそうなのですが、朝は忙しいので「こっちにしよう」と母の策略で短いのにしたり…。今は働く車（ミキサー車やダンプなど）がでてくるものがお気に入りなのですが、先日はお菓子のでてくる絵本を読んでいたら、ちょっと目を離したすきにそのページをビリビリとちぎってました。お菓子食べたかったのかなあ。

平日は保育から帰ってごはんを食べてお風呂に入れてと、すぐに寝る時間がくるので少しの絵本タイムは寝る前の、子どもとのラブラブな時間でもあります。どなたかお薦めの絵本が

ある方は、また教えてくださいね♡。



## 薬用酒アラカルト⑱『レモングラス酒』



薬局から毎月発行されている院内情報誌『カプセル』で紹介されたレモングラス。その後、本誌『ひろっぱ』の編集室通信でも採りあげられ、今回はなんと、お酒になっての登場です。材料は、じつは近森理事長宅で栽培されていたものなんです。

レモングラスは葉の姿がススキに似ており、甘いレモンの香りをもっています。その成分は、**脳血栓、脳梗塞、心筋梗塞の予防**に、レモングラス酒は、美肌づくり、消化不良、貧血にも効果が あるといわれています。

その他に、同じく理事長宅からいただいた、ローズマリー、タイムも少し一緒に漬けてみました。

## &lt;材料&gt;(密閉容器 1L分)

レモングラス…90g、ローズマリー…少々、タイム…少々、ホワイトリカー…約700ml  
※漬けてから約1ヵ月後、さわやかなレモンの香りを期待して、ひろっぱ編集委員による試飲会を行いました。しかし、その反応は微妙。「葉草のにおいと味」、「レモングラスだけで漬けた方がシンプルでよかったかも」など(以下略・笑)。でも、最後は、「体によさそう」と締めくくっていただき、正にその通り!「良薬口に苦し」です。今度はシンプルに漬けてみようと思います。

氷を浮かべ、ガムシロップを加えると、まるやかになります。評価の分かれるこの種のものこそ、ぜひお試しを。

(文と画 薬局 嶋崎 ユリ)



ものです。今回のポスター・パネル展を通じてもっとエイズを身近に、そして“私にできること”を考える機会となれば嬉しく思います。エイズに関するクイズを通じて勉強になりましたと言われる方、また子供にも教えようとパンフレットを持ち熟読している方など多くの方が参加してくれました。私たちにできること、それはこのような機会を続けていくこと。本当にありがとうございました。

(臨床検査技師 梶原麻世<左>  
産業保健師 野口由美<右>)

## ハッスル研修医 第二部最終回

## 野球バカ 後期研修医 南 大揮

一言で言うと、僕は野球バカです。三度の飯より野球が好きと言ってもいいくらいで、野球の試合なら何時間でも延々と観ることができます。

今年の夏休みはもちろんアメリカに大リーグを見に行きました。5日間の滞在で3試合を観戦してきたら、某副院長に「ばかやろうだね」と呆れられたほどです(笑)。アメリカにはこれまで3回行って、4つの球場で8試合観ましたが、ボールとバットのぶつかる乾いた音が響き渡り、観客が一球一球に沸く球場の雰囲気は最高です。皆さんもぜひ一度行かれてみてはいかがでしょうか?

さて、写真は松坂より一足早く手に入れた、レッドソックスの18番のユニフォームです。(と、言っても実は昨年ボストンに行った際に買ったもので、今はヤンキースにいるジョニー・デーモンが付けていた時の物なのですが…)



こんな僕ですが、日頃の診療には野球以上の情熱を持って取り組んでいるつもりです。今年の春から循環器内科の後期研修医として採用していただき、まだまだ未熟な点多いかと思います。

患者さんの立場に立った医療を実践できるよう努力していきたいと思っておりますので、御指導・御鞭撻のほどどうか宜しくお願いします。

## もっと身近にエイズを考えて～エイズキャンペーン報告



感染対策委員会・安全衛生委員会では12月1日の「世界エイズデー」に先駆け

毎年エイズキャンペーンを行っています。今年の世界エイズデーのテーマは「Living Together 私にできること」です。写真の私達が持っている赤いバッジ(レッドリボン)をご存知ですか?このレッドリボンは「エイズに関して偏見をもっていない、エイズとともに生きる人々を差別しない」というメッセージがこめられた

# 近森会忘年会 2006

▼近森会 MVP に輝く皆さん (敬称略)、晴れの舞台で



根岸 円山 内田 吉永 川久保 高橋 尾知 吉田

▼近森会 MVP に輝く企画情報室の皆さん



中山 濱田 隅田 長山 寺田 上田

▼近森会 MVP に輝く薬局薬剤師の皆さん



曾我部 小田 嶋崎 猪野 小川 野本 中野 松本 松坂 筒井 北本 竹内 西森 糸林

▼ハートセンター MVP に輝く皆さん、力強く



島崎 菜名 濱田 竹崎

## 職員旅行で生まれた本



2005年のポルトガルへの職員旅行から生まれた『写真集里斯本の3日間』。呼吸器外科の山本彰部長が、まるで仕事みたいに熱心に精力的に、食事の時間も惜しんで撮った1,000枚近い画像から選り抜かれた88枚。何でこんな風景に目がいったの！と、現地を知らない人々をまで唸らせた傑作の数々。右は2006年のトルコ旅行のひとコマ。

同行の職員がこんな風な不思議な山本カメラマンの撮影風景を、何枚もあちこちでカメラに収めていたのが愉快。

さらに、山本先生の写真集に触発されたのか、記念写真とは一味違った「考えた一枚」、あるいは「構図の見事な一枚」を撮る人が多かったとの情報もチラホラ。

山本部長は「みんなが自分の一枚を出しあって写真展を開きたいとか、近森会で写真文化が花開くきっかけになったかも!？」とちよっぴり満足げ。

|         |             |         |         |
|---------|-------------|---------|---------|
| 11月の診療数 | 近森会 外来患者数   | 18,548人 | 企画情報室より |
|         | 近森会新入院患者数   | 876人    |         |
|         | 近森会 退院患者数   | 850人    |         |
|         | 地域医療支援病院紹介率 | 93.57%  |         |
|         | 近森病院平均在院日数  | 14.67日  |         |
|         | 近森会 平均在院日数  | 21.59日  |         |
|         | 近森病院救急車搬入件数 | 422件    |         |
|         | うち入院件数      | 232件    |         |
|         | 手術件数        | 307件    |         |
|         | うち手術室実施     | 239件    |         |
|         | 全身麻酔件数      | 146件    |         |

## 創刊 季刊「土佐人」



1986年7月発行の『ひろっぱ』創刊号からずっと誌面の割り付けレイアウトを担当する和田書房が、このたび季刊「土佐人」を発行。日常生活のアレコレを雑誌ならではの視点で採りあげ、32号まで発行予定。近森会各院の各受付と高知市内有名15書店で発売中(500円)。「本が売れることで続けられます。ぜひ買ってください♥」

## 編集室通信

▼年末年始は忙しい。心を亡ぼすと書くとは忙しいという字になる。本当にそうだろうか。  
年中忙しい近森会の職員は結構、心亡びていないと思う。多分お酒が好きで遊ぶことも上手な人が多いからではないだろうか。私も年末イスタンブールのモスクやエジプト市場、宝石満載の宮殿を散策することができてワクワクして帰ってきた。恵まれた職場環境の幸せをエネルギーに変えて今年もヨシ!(歌)



▲「まあ山本先生が寝そべてって撮りゆうぞね!」と感動した山崎マリNSがすかさず撮影。同行者からこのテの山本部長の撮影風景を撮った写真がどっさり寄せられているとか  
焦点をブルーモスクの天井へ  
しばらく寝ころぶドクター山本 山崎マリ